

互いに仕え合う

大学宗教主任

高砂民宣



皆さんは、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた『最後の晩餐』という有名な絵をご存知だと思います。イタリアのミラノにあるサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院の食堂の壁に描かれた、とても大きな絵です。この絵に描かれているように、イエス・キリストは捕らえられ、十字架につけられ、殺される前の夜、弟子たちと一緒に、最後の夕食を共にされました。

食事がひと段落した頃でしょうか。イエス・キリストは突然、その食事の席から立ち上がりました。上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれます。そして、たらいに水を汲み、弟子たちの足を洗い、手ぬぐいでふき始めたのでした。

弟子たちは驚きました。そして弟子の代表格であるシモン・ペトロは、慌てて言います。「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか」(6節)。「私の足など、決して洗わないでください」(8節)。しかし、イエス・キリストは言われました。「もし私があなたを洗わないなら、あなたは私と何の関わりもなくなる」(8節)。イエス・キリストはそう言って、ペトロの足を洗い、12人の弟子たちの足をすべて洗い終えたのです。

この出来事は一体、何を意味しているのでしょうか？ それはイエス・キリストが、弟子たちに対して模範を示されたということです。ご自分が弟子たちの足を洗ったように、弟子たちが互いに愛し合い、仕え

主であり、師である私があなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。

ヨハネによる福音書 13章1～20節（一部抜粋）

合うようになることを、身をもって教え諭したのです。

興味深いことに、「しあわせ」という言葉は、幸福や幸運の「幸」という漢字を使う場合と共に、「仕合せ」といったように、“仕え合う”という表記を用いることもあります。本当の幸せとは、自己中心的な生き方をするのではなく、お互いを尊重し、お互いのことを、掛け替えのない大切な存在であると認め、自分のように愛し、仕え合うことにこそある。まさにイエス・キリストは、そのことを身をもって示されたのでした。そして最後には、ご自分が十字架につくことによって、すべての人の罪を洗い清めるといふ、究極的な模範を示されたのです。礼拝堂に掲げられている十字架、それはキリスト教のシンボルマークであると共に、神の愛がどれほど深いものであるかを私たちに語っています。そしてこの十字架を見つめる時、私たちはこの大きな神の愛に一人ひとりが包まれていることを知るのでした。

イエス・キリストの洗足について授業で語った際、或る学生がレスポンスシートの中で興味深い示唆を与えてくれました。それは TWICE という韓国のアイドルグループが、メンバー同士お互いに感謝を示すために、「洗足式」を行うというものでした。韓国にはクリスチャンが大勢いますが、その動画を視て、キリスト教的な伝統が自然な形で浸透していることを感じました。

神の独り子であるイエス・キリストは、弟子たちの足を洗うことによって、互いに愛し合い、仕え合うことの大切さ・貴さを、身をもって示されました。私たちもこの御方に倣って、人と人との交わりの中で、このことを実践して行けるように願います。

青山学院を巣立って行く皆さん一人ひとりが、「地の塩、世の光」として、豊かな貢献をされることを祈り願います。